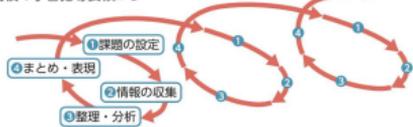


# コレだけは 知っておきたい! 教育NEWS

イマ  
どき

## 「探究」のプロセスにおける学習のイメージ

高校の学習指導要領から



日常生活や社会に目を向け、生徒が自ら課題を設定する → 自らの考えや課題が新たに更新され、「探究」のプロセスが繰り返される

## 「探究」で重要になるキーワード

- FUTURE**……未来を「洞察」する  
**STEAM**……Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Arts (芸術)、Mathematics (数学)  
**SDGs**……Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)  
**ソーシャル・イノベーション**……社会課題の解決  
**アカデミックスキルズ**……レポートや論文を書く技術  
**デザイン思考**、**アート思考**、**キャリアデザイン**、**非認知能力**、**人とのつながり**、**社会とのつながり** など

## なぜ今「探究」か？

# 探究学習は、世界を、未来を変える!

NEA(教育アライアンスネットワーク)では、この秋、「学び」の教育セミナー「トリロジー」を開催しました。第2回のテーマは「探究」。基調講演の森弘達さん、ポーク重子さんのお話をダイジェストでご紹介します。

## 「基調講演」 これからの学びの中心 「探究」を探る



森 弘達さん

大連中学高等学校校長、情報経営イノベーション専門職大学客員教授、国際バカロレアディプロマプログラムアドミニストレーター。昭和薬科大学附属中高教諭、武蔵野大学附属千代田高等学校副校長を経て現職。個別指導した生徒たちが国公立大学、私立大学医学部医学科に800人以上が合格。「ハイスコア」(乙会)など著書多数。探究学習型型アディブラーニング教材「FUTURE」監修・執筆。

## 「探究」は生涯にわたって 必要な学びの姿勢

「探究」は自分の在り方、生き方を深く考えたり、自分事として社会課題を自ら解決の道すじを探ったりする学習で、学校を卒業して社会に出てからも生涯必要な学びの姿勢です。

例えば、台湾のデジタル担当政務委員であるオードリー・タンさんは、コロナ禍において、デジタル化された健康保険カードを活用し、マスク配給制度を迅速に作り上げました。このような社会課題の発見や解決も「探究」です。

## 「探究」のポイント

- 各教科の知識を材料に、自分で課題を選び(課題の設定)、情報の収集、自分で組み立て(整理・分析)、自分で形にして(まとめ・表現)、自分なりの「最適解・納得解」を見出す。
- 自分と他者、自分と社会をつなげ、よりよく課題を発見し、イノベーションに解決する。

予測困難な未知の状況でも、能動的・主体的に一人ひとりが深く考え、判断することにも、チームで対話し、協働して課題解決を図る。

## 「探究」型の人材 大学や企業が求めているのも

2022年から高校で新学習指導要領が実施されますが、「古典探究」(国語)、「地理探究」(歴史探究)、「理数探究基礎」(理数探究)、「総合的な探求」(時間)など、教科・科目の再編・新設が行われ、「探究」に重点が置かれています。

実際、既に大学入試では変化が起きており、総合型選抜や学校推薦型選抜を中心に、論述型の正解のない入試問題<sup>①</sup>が出題され始めています。このような問題には、「探究」型の学びを身につけていないと太刀打ちできません。

大妻中高では「FUTURE探究」「STEAM探究」「医療系探究」などのテーマで、最先端の研究者を招いて探究講座やワークショップを実施しています。そのテーマの一部を紹介します。

- ①「超Eマ社会をつくる」(未来に残したい仕事の世界)
  - ②「われわれSDGsの探検隊」(ロボット人間が戦う世界)
  - ③「ドローンタクシーを宣伝しよう」(その情報大丈夫?)
  - ④「STEAMで考える大学入試問題」(安楽死法の制定「医療倫理」) (知っておきたい身体と心の仕組み) など
- 私の指導経験からも、これからの「探究」の学びで欠かせないのは次の3つだと思います。
- ① 問いを持つ、課題を発見する
  - ② 人や社会とつながり、対話し、協働する
  - ③ さまざまな組織に所属し、複数の専攻を持つ
- 大学や企業が求める人材も、この方向に変わってきています。予測困難な未来に向けて、世の中のできざまなことを目を向け、関心を持つ。そして、どうすればよりよく生きられるか、よりよい社会になるかという問題意識を持って、日頃から学習していくことが大切です。

## 「基調講演」 全米最優秀女子高生の母に聞く！ 保護者のかかり方

ボーク重子さん



Shigeo Bork BYBS Coaching LLC 代表、ICF 認定ライフコーチ。非認知能力育児のバイオフィア。代表を務めるコーチング会社では「非認知能力を育む子育てコーチング」を提供。2017年、娘のスカイが「全米最優秀女子高生コンテスト」で優勝。「非認知能力」の育て方（小学館）、「世界最高の子育て」（ダイヤモンド社）、「子育てに「向かない私」にならない30のルール」（文藝春秋）など著書多数。

### アメリカでは20年前から「非認知能力」の教育が進む

「ここ最近、非認知能力という言葉をよく聞けれど、どんなものなんだろう？」と思っいたら、しゃる方も多いのではないだろうか。

「認知能力」はテストの点数や偏差値などの数値化できる力、つまり学力ですね。「非認知能力」はその真逆です。自信、自己肯定感、自制心、主体性、想像力、柔軟性、社会性、共感力、協働性、やり抜く力、回復力（レジリエンス）、それらがパッション（情熱）など、数値化できない力を総合して「非認知能力」と呼んでいます。

私の娘は、2007年に「全米最優秀女子高生コンテスト」で優勝したのですが、学力は5分の1で、あとは「非認知能力」の評価でした。アメリカは20年前前から、学力だけではなく、子どもを総合的に見る「Whole Child Approach」が主流になっており、そこで重視されているのが「社会的情動的教育（Social Emotional Learning, SEL）」です。「非認知能力」の育成なのです。

- 自分を「理解」する能力
- 自分を「管理」する能力
- 他者を「理解」する能力

- 他者と「協力」する能力
- 責任ある「意思決定」をする能力

1994年からこれらSELの5領域が体系化され、現在、全米すべての州で、就学前の子どもへの「非認知能力」育成目標が法制化されています。

### 「探究」する子どもを育てるには「認知能力」+「非認知能力」の両輪で

例えば、娘が通った高校では「最高級でこんな判決が出ましたか、みんなどう思ってますか？」と生徒自らが問題提起してディスカッションする授業が普通で、すごく驚きました。学んだ知識や集めた情報をもとに、「あなたはと思うか？」と主体的に考えることを重視しているんですね。

では、このような「非認知能力」を育むために親ができることは何か。ポイントは3つです。

- ①安心・安全な環境をつくる。子どもをあるがまま無条件に受け入れ、無条件に価値を認めることで、自己肯定感が育まれる。
- ②子どもの「主体性」を育む。A1にできないことは「スイッチを入れること」。「やりたからやる」という主体性は人間だけの能力。親がロールモデルとなり、失敗も含めて生きる姿を見せることで、子どもは「やり抜く力」や「回復する力」を学んでいく。

③外に向かう「表現する」「行動する」  
対他者、対社会の視点で「あなたはと思うか？」  
「あなたはどうしたい？」と問いかけ、自分を社会にどう役立てていくか考えさせる。

いい点数を取って、いい大学に入って、いい会社に入って一生安泰、という価値観はもう崩壊しています。子どもも、予測困難な未知の状況に対応できる「探究」型の大人に育てるには、「認知能力」+「非認知能力」の両方が必要不可欠です。ぜひ、親子一緒に「非認知能力」を高めていってください。

## 石川一郎先生が聞く これからの学び「探究」に必要な子どもとの接し方とは

### 「人に出会い、刺激を受け、問いをもつことが「探究」の第一歩」



森 弘達さん

「探究」の学びにおいて非常に難しいのが「課題」を見つけることです。学校には先生と生徒、家庭には親や兄弟姉妹などの家族がありますが、それ以外の人たちとの出会いは少ないです。ですから、意識してさまざまな分野の最先端の人たちとの出会いをつくるのが大切だと思います。尖った研究者やアーティストとの「対話」は非常に刺激的で、その出会いによって、「学び」のスイッチが入ることが往々にしてあるからです。そうした出会いをもとに、「なぜだろう？」「どうして

だろう？」「探究」していく。「問い」を持つことが「探究」の第一歩です。また、これからの大人入試は、「教科学習」と「探究」と「非認知能力」、この3つが重要な力を求める方向になるでしょう。実際、国公立・私立とも、難関大学の入試問題はかなり深い思考を要求する問題に変わってきています。中学入試や高校入試でも同様です。ただし、受験がすべてではありません。将来的に生きる力となる、主体的・対話的な「探究」を突き詰めていくことが大切だと思います。

### 「子ども自身にとっての正解を見つけることが大事！」

ボーク重子さん



これからの探究型の学びには、家庭での親子のかかり方がとても重要だと思います。大切なのは、次の3つです。

- 親が考える正解を、子どもに押しつけない
  - 子どもが自分の意見を自由に言うように
  - 子どもの考えを否定しない、ジャッジしない
- 例えば、「大人になったら、ユーチューバーになりたい」と子どもが言ったとき。そのとき「そんなのダメよ！」と頑固な親になりたくない？」「へえ、面白そう」と聞かせる。聞かされて初めて子どもは深く考えるものですね。まず、親の正解を押しつけない、「面白そう！」と興味を抱くことがとても重要。次に、「なるほどね」「そんなふう考えたんだね」と共感。「そして、「じゃあ、ユーチューバーになるためには、どんな技術が必要なんだろう？ ちょっとならうか？」と促してみる。「探究」の入り口になると思いますよ。

### 「一生ものの好奇心を！」

森さん、ボークさんのお話を受けて



石川一郎先生

2021年のノーベル物理学賞を地球温暖化の研究で受賞した真鍋淑郎さんは、「好奇心で一生研究をした」と語っています。「好奇心」は学びの原動力になるんですね。忙しいときに子ども

もの「なんで？」「どうして？」に付き合うのは大変かもしれませんが、はぐらかさずに一緒に考えてみる。そこら「正解のない問い」に向かっている力が身につけていくと思います。